

# インタースクール インターグループ

45年来、即戦力の養成で  
定評のあるプログラムを提供

「日本人は英語が苦手」が  
許される時代は終わった

1966年、国際会議などの第一線で活躍できる同時通訳者の養成機関として誕生したインタースクール。「即戦力の養成を追求した、プロによる妥協を許さない指導」で、45年来数多くの人材を国際舞台に輩出。大手企業、政府官公庁のトップやキャリアの外国人語運用力の養成を担っている。



トータルコンベンションのサービスにおいては、日本で最初に業務を確立したパイオニア

「かつて、日本のGDPが世界第2位で『ライジング・サン』と呼ばれていた時代には、下手な英語でも、日本人の言うことなら相手が我慢して聞いてくれました。しかし現在、新興国でグローバル・ビジネスを担う人材は、高い教育を受けた超エリートたち。教養があり、ノンネイティブでも素晴らしい英語力を持っています。世界で生き残っていくには、日本のビジネスパーソンたちも彼らに負けない実力を身に付ける必要があるのです。」

こう語ってくれたのは、代表取締役の小谷寿平氏。こうしたグローバル化の動きに対応するため、同社でもさまざまな企業研修プログラムを提供しているのだが、実はそこには、長年培ってきた通訳者育成のノウハウが非常に効果

的に取り入れられている。

即戦力の英語にこそ  
通訳訓練法が効く！

例えば、英語を聞いたり話したりする場合、日常会話レベルなら80点の語学運用力があれば問題なくコミュニケーションがとれる。しかし通訳者は、100点満点を目指さなければプロとして通用しない。そこで通訳を目指す人は、シャドーイング、スラッシュリーディング、サイトトランスレーションといった通訳養成のために開発された訓練法で、英語の精度を高めている。同社では例えば、電話会議などで、英語で完璧に対応できるレベルを求められるビジネスパーソン向けのプログラム

## インターグループの事業全体像

- インタースクール
- 法人語学研修
- 語学スペシャリスト派遣・紹介
- 通訳サービス
- 翻訳サービス
- 国際会議・イベント
- 自然言語処理・音声情報処理



### 小谷寿平氏

インターグループ代表取締役。ミシガン大学MBA(経営学修士)、インテル社を経て、株式会社インターグループ入社。2009年より現職

にこれを導入している。また、英文素材には時事ニュースを使うので、英語と同時にグローバルな視点も自然と身に付くという。

### 実戦で活躍するプロが 語学運用力の養成指導

ところで、語学運用力とは具体的にどのようなことなのか。小谷氏は次のように説明してくれた。

「語学運用力は、文法の精度や使用する語彙などに現れます。例えば単語1つ1つが相手に与える印象など細部まで熟知していれば、ビジネス

の場で自分の意図を正しく伝えられます」。

一貫してグローバルエリート  
の養成を目指し、国際会議  
など国際舞台で使用される言  
葉の重みを知り尽くしている  
インタースクールは、こうい  
った質の高い運用力を身に付  
けられるプログラムを数多く  
提供している。

ちなみにインタースクール  
には、「インターメソッド」と  
呼ばれる伝統のシステムが存  
在する。これは、①学校で通  
訳者になる訓練を受け、②卒  
業後は実際に通訳の仕事をし  
ながら最新かつ高度な生きた

## 法人向け語学研修・レベル別プログラム

### レベルA：最低限の通常会話ができる

総合ビジネスコミュニケーションコース etc.

### レベルC：日常・業務上の対応ができる

総合ビジネスコミュニケーションコース  
ネゴシエーションコース etc.

### レベルB：日常会話レベルでの対応ができる

総合ビジネスコミュニケーションコース  
プレゼンテーションコース etc.

### レベルD：十分なコミュニケーションが可能

総合ビジネスコミュニケーションコース  
プレゼンテーションコース etc.  
**英語スピーチライティング講座** etc.

英語をインプットし、③スキルとしての戻って知識を次の世代にフィードバックするという「人財育成のサイクル」。つまり、同社で教える講師たちは時代に即した実践レベルの語学運用力を持っているので、受講者も質の高い語学運用力が身に付けられるのだ。

## ビジネスパーソンに効く！ 企業研修

# 英語スピーチ ライティング 講座

### 発信力アップを目指す ユニークな講座が続々

日本人は、たとえ英語そのものでも「発信力」が弱い——長年の経験からそう実感しているインタースクールは、最近、英語の発音矯正講座、プロアナウンサーや劇団の発声トレーナーを講師に迎えたボイストレーニング講座、プロ通訳者とネイティブによる日英パフォーマンス養成講座など、発信力アップを目的としたコースを次々と開講している。

### あまりにも低い スピーチの日本での地位

中でも一番の注目が、日本の学校ではおそらく初めて実現した「英語スピーチライテ

ィング講座」だ。

この講座の講師を務めるのは、慶應義塾大学大学院特別招聘教授の谷口智彦先生。先生は仕事の関係で、これまで数多くの国際会議に出席してきた。そこで各界の日本人トップたちが、下を向いて原稿を棒読みするだけのスピーチを長年見てきたという。「他

国の参加者とあまりにも違うので、いつもものすごく恥ずかしい気持ちになりました」。欧米諸国では昔から、政治家や企業のトップなどには必ずプロのスピーチライターがついている。一方日本では、「控えめであることが美德」

「派手なスピーチで目立つのはみっともない」と一般的に考えられているためか、プロのスピーチライターという職業そのものが存在しない。日本がまだ世界に名だたる経済大国だった時代ならそれでもよかった。しかし今や先進国や新興国が激しくしのぎを削っている時代。魅力的なスピーチができるトップが増えなければ、日本への注目も集まらず、国の未来が危うくなるかもしれない。つまり、谷口先生によればスピーチは、「魅力的な出し物を聞き手に提供する劇場」であり、いわば「究極の広報活動」なのだ。

こうした状況を踏まえて谷口先生は、「パブリックスピーチの地位を向上させ、プロのスピーチライターの重要性を認識してもらおう。そして何より、スピーチの面白さを知ってもらうため」というビジョンのもと、今回の講座を始めた。

過去の有名スピーチでノウハウを徹底分析！

講座はまず、チャールズ首相、キング牧師、ケネディ大統領など、過去の名スピーチの映像を見ることからスタート。そのスピーチのどんな部分か優れているのかを解説する。一方で受講者には、テーマを決めてまず日本語でスピーチを書いてみるという課題（宿題）も出される。



### 谷口智彦氏

ジャーナリストを経て2005年～08年、外務省外務副報道官として対外発信全般を担当。「企業も国もトップの発言、スピーチ力で差がつく時代ですね」

次に行うのは、1つのスピーチ素材を細かく分解・検証する作業。ここでは全体がどのような組み立てになっているのか、どんな仕掛けが隠されているのかなど、内容を具体的に読み解いていく。例えば、オバマ大統領が議会で健康保険について語ったスピー

英語スピーチライティング講座・プログラム

- 第1回 [総論] スピーチのパワーを知る
- 第2回 [分析I] スピーチ作りのノウハウを学ぶ
- 第3回 [分析II] いいスピーチでセンスを磨く
- 第4回 [分析III] いいスピーチの仕掛けに学ぶ
- 第5回 [実技指導] スピーチにチャレンジする

受講者には、もう一つ大きな課題が用意されている。それは日本語と同様、テーマを

最後は英語スピーチ発表  
映像で自らもチェック!

のだが、耳で聞いてすぐ理解できなければいけないので、単語や文法の使い方が驚くほどシンプルな構成になっているといった解説も行われる。

チでは、共和党のある議員が途中で大統領に暴言を浴びせ、翌日に謝罪会見を開くという大騒動に発展した。実はこれ、スピーチの中に暴言を吐きたくなるような仕掛けが巧妙に隠されていたのだという。

受講  
しました!

将来の実戦に備えて  
初のスピーチに挑戦しました。

定めて英語でスピーチを書くこと。講座の最終日には、録画しながら全員の前でスピーチを発表。その後は録画内容をプレーバックし、先生の寸評を受ける。「Yesを何度

も繰り返し言うのは、スピーチの定石でもとてもいいが、言い方は1回ずつ変えないと効果が出ない」「ここはオーディエンスからの拍手を想定している部分なので、一瞬ポー

ズを置いて待つてみるという」「といった具体的なアドバイスがもらえるので、スピーチに対する理解度もさらに深まり、実践レベルのスキルが学べるというわけだ。

竹谷真紀子さんは、今年6月の記念すべき第1回英語スピーチライティング講座に参加した。勤務先は外資系企業の広報部。彼女の会社では年に一度、外国人の経営陣が全社員に向けてスピーチを行う機会があり、そのドラフトを準備するのも広報部の仕事だ。現在は同じ部署の上司がこの業務を担当しているが、将来的には自分もその業務ができるようになりたいと考える。講座への参加を決めたのだという。

「実はこの講座に参加している間に、日本語ですが、初めてスピーチ原稿を書くことになったんです。それで先生が、『家族などの個人的なエピソードを盛り込むと、スピーチに対する親しみが出ていいよ』とか、『ビジュアルが思い浮かぶような記述を盛り込むと、話にふくらみが出るよ』といったアドバイスを授業中におっしゃっていたので、さっそく盛り込んでみました」。

さらに竹谷さんは、最終日の英語スピーチ発表にも積極的に参加。

「自分ではかなり注意して、抑揚をつけてゆっくり話したつもりだったのですが、録画を見るとまだまだ足りない。もう、『そんなの不自然でおかしいだろ?』というくらい大げさに話さないとスピーチはだめなんだということがわかったのもよかったですね」。



竹谷真紀子さん  
プログラム受講生

外資系企業広報部。仕事でスピーチを書くことがあり、業務に直結した内容を学べる『英語スピーチライティング講座』を受講。

インタースクール 金沢校  
☎076-221-4870

インタースクール 広島校  
☎082-246-4955

インタースクール 東京校  
☎03-5549-6910

インタースクール 京都校  
☎075-256-3685

インタースクール 福岡校  
☎092-712-9549

インタースクール 大阪校  
☎06-6372-7551

インタースクール 仙台校  
☎022-215-4011

インタースクール 名古屋校  
☎052-581-5599

1966年に同時通訳者の養成機関として創立。コミュニケーション・サービスのパイオニアとして、国際会議の企画・運営、高度語学教育、通訳、翻訳、語学スペシャリスト派遣・紹介、語学スクール、自然言語処理、音声情報処理など、多岐にわたるサービス・プログラムを提供している。

インターグループ

<http://www.intergroup.co.jp/>